

新潟・五反田遺跡



(高田東部)

5 反田遺跡及び木簡出土遺構の概要
6 遺跡の年代 古代～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

- 1 所在地 新潟県上越市板倉区米増字横田ほか
- 2 調査期間 二〇〇五年(平成17年)四月～八月
- 3 発掘機関 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 渡邊裕之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

五反田遺跡は古代から近世にかけての複合遺跡で、東頸城丘陵から流れ出る大熊川によって形成された扇状地の扇尖部付近、標高四

四～五mの緩斜面上に立地する。調査は二〇〇四年から二〇〇五年にわたって実施した。遺跡の主体は八世紀前葉～一〇世紀後半で、掘立柱建物二五棟を検出した。大型建物を中心とし、豪華な白磁碗、多数の奢侈品である白磁碗、多数の

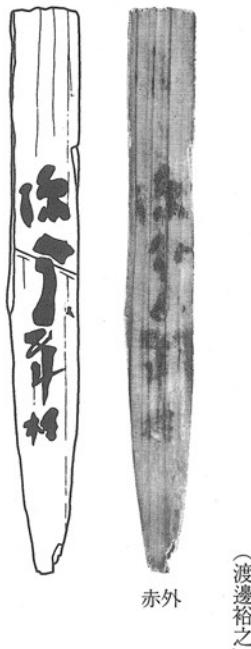
8 木簡の釈文・内容

(1) [□□□□□]
〔源カ〕〔五斗カ〕

長方形の材の一端を細く加工して尖らせる。表面を削った際の加工痕が表裏面に認められるが、劣化のため木目の一部が浮き出ている。墨痕は不鮮明で肉眼での判読が難しい。なお、釈読にあたっては田中一穂氏のご教示を得た。赤外線写真も同氏の撮影による。

9 関係文献

新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『北陸新幹線関係発掘調査報告書Ⅲ 台の上遺跡・峠ノ上遺跡・五反田遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書一二八、二〇〇五年)



木簡は、二〇〇五年調査において、近世以降の包含層であるII層から一点出土した。

木簡は、二〇〇五年調査において、近世以降の包含層であるII層から一点出土した。